

市長タウンミーティング

～ テーマ：元気な商店街・元気な蕨づくり ～

と き：平成 20 年 7 月 9 日（水）
午後 7 時 00 分～8 時 30 分

場 所：旭町公民館 集会室

参 加 者：26 人

市出席者：市長、市民生活部長、都市整備部長

○市長あいさつ

（市長より、タウンミーティングを開催した趣旨と最近の市政の動向、タウンミーティングのテーマに関する市の現状や取り組みについて説明が行われました。）

○意見交換

質問・意見

蕨の「機まつり」は、たくさんの方が訪れて、たいへん大事なお祭りではないかと思いますが、最近は飾り物が非常に少なくなっているのが目に付きます。以前は、もっとたくさん、いろいろなものがあり、すばらしかったような気がします。「中仙道宿場まつり」や「苗木市」も同様に、もっと祭りに力を入れて、人が更に多く集まってくれるように改善していただきたいと思います。

次に駅前商店街の件です。私が 3 年前に調べてみたとき、空き店舗が昔に比べて 1 割くらい多くなっていることがわかりましたが、今はどのような状態なのでしょう。

最後はこの旭町公民館の件ですが、今後、ここは映画館など夢のある生涯学習センターなどであってほしいと思います。また、大・中・小の会場や 20 人から 50 人くらいの会議室、また料理が作れる部屋があるなど、地域の人が身近に使える施設であればいいかと思いますが、この公民館の跡地はどうなるのでしょうか。

市 長

1 つ目の「機まつり」が、まちの活性化にたいへんたいせつではないかというご意見

ですが、私も子どものころ「機まつり」に行くのが楽しみでありましたので、おっしゃるとおりだと思います。実際、今も蕨が誇る大イベントになっているこの祭りは、商店街の皆さんや観光協会、商工会議所で毎年いろいろ工夫を凝らしながら取り組んでいます。しかし、飾りつけは、確かに少なくなってきたと感じますので、今後、この問題の具体的な解決方法を皆さんの知恵をいただきながら考えていきたいと思えます。50周年事業の公募された実行委員さんからは、「現在出展している小・中学校の児童・生徒による飾りつけを増やしてみたいか」という意見もありました。

2つ目の空き店舗の件ですが、先日行われた「元気な商店街づくり検討委員会」での資料によりますと、平成15年から17年までの結果ですが、駐車場や空き地も含めて15年は26か所、そのうち空き店舗は13か所です。16年は28か所、そのうち空き店舗は15か所。17年は30か所、そのうち空き店舗は17か所です。それから3年たちますが、空き店舗は微増している感じがします。今後、この空き店舗の活用につきましては、商店の皆さんのご意見を伺いながら、よりよいしくみを考えたいと思えます。

3つ目の旭町公民館の件ですが、地元の皆さんのご意見を踏まえまして、蕨駅西口再開発事業の第1工区へ移ることになっています。その第1工区には、1階に公民館、2階に保育園、3階にはホールという公共施設ができます。映画館ではありませんが、基本的には、現在の施設よりも大きくて充実したものが出来ますので、大いに活用していただきたいと思えます。また、現在、旭町公民館は老朽化していますので、教育委員会では移転後、取り壊す考えになっています。取り壊した跡地に関しましては、現在検討中の中央第一土地区画整理事業の問題がありますので、具体的なことは申し上げることができません。ただ、新しい公共施設を造るとき、行政では建設費しか見ませんが、実は企業会計の観点で見ますと、減価償却費などを考慮し、維持管理費も年間数千万円計上しなければなりません。そうした観点から、財政状況が厳しい蕨市は、今ある公共施設を維持・管理して、これからも使っていこうと考えています。したがって、市民活動をサポートするような施設であれば、既存の施設を活用されたり、第1工区に新しくできる施設を使ったりしていただきたいと思えます。

質問・意見	<p>お年寄りが歩ける範囲というのは、直径500メートルくらいの間といわれていますので、これから市が空き店舗を有効活用する場合には、休憩所的な場所を考えていただきたいと思えます。</p> <p>また、空き店舗を1年間無償で貸して、もし継続する場合は事業主が改めてお金を払って借りて、その1年分だけ、市が負担するというチャレンジショップ的なものを検討してみたいかでしょうか。</p> <p>次に、商店会の取り組みについてですが、商店会の人たちが窓口になって、いろいろな商店にある品物の注文を受けて代理で買い、商品をお客さんの自宅に届けるというFAX出前を行ってみたいかでしょうか。</p>
--------------	---

質問・意見

昔、鋳物工場がたくさんあった川口は、現在、ベーゴマなどを名物として売るコーナーがあります。蕨市にも銘菓や名物などがあるので、同様に空き店舗を利用して名物を売ってみてはいかがでしょうか。

また、七夕祭りに関しましては、商店街の普及のためには、どうしても住民の皆さんが協力しないと成り立っていかないと思います。私たちが21年前に宿場まつりを企画したときは、市から補助がありませんでした。後に補助がされ、今のような宿場まつりになっているかと思います。

また、蕨市民憲章には「年寄りを敬い、子どもを健やかに育て、心豊かなまちをつくりあげましょう」ということがうたわれているほか、旧中山道や要害通り、市民会館の裏の城址公園、ボランティアで行われているまち案内など、蕨らしいよい面が多くあると思います。そうしたよい面を第1工区にも生かし、要害通りにあるような、子どもが安全に遊べる水が流れる公園などを設けるなど、少し設計変更していただきたいと思います。

市役所は情報公開をなかなかされないので、第1工区にどういうものが出来るのか分かりません。また、50周年はいまだに何をやるのか出ていません。市の職員は、横の連絡を取り合って、1つの問題に真正面から取り組み、市民の意見を集約していってもらいたいと思います。

質問・意見

中央第一の区画整理がかかっているこの地区は、現在、計画の見直しを前提として持続するという事で決まっている一方、換地とされた市の土地が空き地となってたくさんあります。そうすると、「せつかく元気な商店街・にぎわいのある蕨づくり」を計画しても、そうした土地があるため、結局、閑散としてしまいます。市民のなかにも「いい土地がなぜ利用されないのか」と疑問に思っているかたの声を多く聞きます。

また、ここの公民館を第1工区に移し、施設はすぐに壊してしまった場合、更に1つ大きな空き地が増えることになります。協働・参画のまちづくりを進めていく上で、もしできるならば、旭町公民館はある程度運営を市民に任せただいて、公民館としてではなく、私たちの使える場所として残していただくということを希望しています。

市長

まず、空き店舗を休憩所に活用されてはいかがでしょうかというご意見ですが、いろいろな制約があるなか、実っていないこともあります。商店街の皆さんもそうしたことを一生懸命考えています。私も買い物をしているときに、ちょっと休める場所が必要であることは、まさにそのとおりではないかと思っています。

チャレンジショップの件もたいせつなことだと考えています。現在、その 1 つの例としての「たま手箱」は、皆さんの人気も高く、大成功しています。ただ、「たま手箱」の場合は、そこでもうまくいっているからそのままお店を出そうといった規模のものではないので、また別な方法を考えなくてはならないと思います。

空き店舗に対する補助金の件につきましては、蕨市の額は近隣と比較して高いほうですが、補助する期間が 2 年間までとなっています。今後は、2 年以降については何らかの減免措置ですとか、補助金を無利子で貸与する奨学金制度のようなしくみがあったもいいのではないかと考えています。

また、商店街の注文を FAX で受けたりして宅配するというご提案は、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。

名物をつくってみてはいかがかというご意見につきましては、現在、商工会議所を中心として「和楽備茶漬け」に一生懸命取り組んでいます。その「和楽備茶漬け」はテレビなどに取り上げられたり、埼玉県主催の B 級グルメ選手権では 2 年連続 6 位であったりと健闘しています。また、菓子組合の皆さんの製品や織姫というお酒、双子織製品などがあり、その蕨ブランドの推進は商工会議所で行っています。

蕨駅西口市街地再開発事業の件につきましては、市街地開発室で行っていますが、現在の取り組みに関する情報は公開しております。また、皆さんからの再開発に関するご意見も、たくさん出していただきたいと思います。しかし、第 1 工区につきましては、昨年見直しを行い、プロムナードについて、防災機能を持たせて欲しいなどの改善要望も含め対応方針を出しましたが、現段階では、提案を生かせるものが相当限られてしまいます。しかし、第 2、第 3 工区につきましては、こういう活用方法があるというご提案をどんどん出していただきたいと思います。

50 周年事業に関する市の対応の件につきましては、これから実行委員会を開き、皆さんからいろいろ知恵を出していただいたり、案の公募などを行ったりしていこうと考えています。そうしたものをこれから議論しながら、よいものをつくっていききたいと考えています。

また、換地など空き地が多数あるというご意見につきましては、旭町公民館を含めたこの地域が、中央第一土地区画整理事業に関わっていることに原因があります。

その区画整理がらみの空き地には、簡単にいうと 2 種類あります。1 つは、土地開発公社というところを買った土地で、将来蕨市が買い戻さなければならない土地です。長く使用するものに使ってはいけないなどの利用制限はありますが、金利を払っていますので、駐車場にするなどの有効活用を図っています。もう 1 つは、土地開発公社から蕨市が区画整理用地として買い戻した土地。例えば、旭町公民館のすぐ近くにある空き地がそうです。この土地は、市のものですが、国の補助金を受けて買い戻したものであるため、区画整理以外に利用してはいけないという規制のある土地です。例えば駐車場としての利用もできません。ですから、「以前、駐車場であったときは、抽選に

なるほど人気がある土地なのに、今なぜ空き地として放っておくのか」という市民の声もあります。しかし、区画整理事業ではない駐車場などは目的外利用になるため、国にその補助金を返還しなくてはならなくなります。結果、区画整理が進まないけれど名目上行うことになっている現状が一番悪い状態です。ですから、今、見直しを含めた議論を行っているところです。更に区画整理の見直しには、埼玉県の同意が必要になってきます。

旭町公民館の跡地の利用につきましては、議会の質問にも出ましたし、地元の皆さんの意向は十分承知しておりますので、いろいろな面で検討しなくてはいけないと思っています。建物については、駅前に新しく公民館が出来るので、維持管理や老朽化などの安全性の問題から、皆さんに自由に使っていただくのは難しいと考えています。したがって、まず結論ありきではなく、町会長をはじめ多くの皆さんのご意見を伺っていきたいと思います。

質問・意見	<p>60年蕨に住んでいますが、蕨市ほど便利な市はないと思っていますが、中山道と、駅前商店街を歩いて気づいたことがあります。例えば駅前通りは電柱がごちゃごちゃあって通りが狭く感じます。お店をきれいにすることも大事かもしれませんが、電線がなくなると空間が非常に感じがよくなるかと思います。</p> <p>また、中山道は現在きれいに整備されていますが、老人が乳母車を押しながら歩くとき、自転車で通るときなど、歩道の真ん中に障害物があるため、年配者には少し不便さを感じます。芸術的には素晴らしいと思いますが、バリアフリーの観点から、けして実用的ではないと思います。こうした問題は、ニューヨークがそうであったように、蕨市も緑を増やすなど、できることからお金をかけずにやっていければと思います。</p> <p>更に街灯に関しましては、たいへん立派なもので明るい反面、電気代がかかり過ぎると思いますし、センスもあまりよろしくないと感じます。</p>
--------------	--

質問・意見	<p>「よいまちをつくりましょう」とか、「商店街を活性化しましょう」という声は聞こえてきますが、私たちは、そのまちづくりのイメージが分かりません。そこで、市長をはじめ職員何名かで、ぜひシンガポールに行ってまちづくりの方法を勉強しに行ってはいかがでしょうか。</p>
--------------	--

市長

電柱の地中化や街灯を含めた景観につきましては、まちづくりにたいせつなことであると考えています。特に電線の地中化には莫大なお金がかかることも事実ですが、安全なまちづくりの観点からも有効な施策だと思っています。

中山道の問題につきましてはおっしゃるとおりで、中仙道商店会の皆さんなどもそう感じています。しかし、こうした整備をする上でいろいろ経過があります。つまり、狭い歩道にわざわざ芸術的なものを入れようとした訳でなく、整備の案の段階では、車椅子でも通れるよう歩道を広くして、ゆっくり歩けるきれいな通りであるよう、一方通行にしようという計画でした。しかし、いろいろ検討した結果、最終的には2車線になり、現在の形になっているのではないかと思います。

駅前通りにつきましては、中央第一土地区画整理事業の規制がかかっており、自由に建て替えができないなど、商店街の皆さんにとってたいへんな重荷になっていることは事実です。したがって、現在、できるだけ早急に方向性をはっきりさせていこうと検討しているところです。

シンガポールがまちづくりの参考になるという件ですが、シンガポールに私どもが行くことは約束できませんが、まちづくりに新たな観点があったという提案として受け止めさせていただくとともに、私も勉強させていただきたいと思います。

質問・意見

端的に「元気な商店街」とは、どういう商店街なのかということをお勉強させていただきたいと思って来ましたが、今までお話を伺っていると、あまりピンときません。例えば、空き店舗の率が少なくなれば元気な商店街の1つの指標であるというのは理解できますし、具体的にシンガポールみたいなまちが元気なまちというならば、そのまちをイメージすることができます。ですから、市長が元気な商店街を目指すといったときに、例えばここを見てくださいとか、我々はここを目指したいなどという、目標になるようなまちがあったら教えていただきたいと思います。

また、昔の蕨の商店街が元気な商店街という定義であれば、それを取り戻すためにはどうされていこうとするのか、昔のノウハウを今の人間にどう伝えていくのか、その辺の対策のお話をお伺いしたいと思います。

市長

元気な商店街はどういう商店街かというお話ですが、私はまさにそのことを皆さんと議論したいと思っています。また、蕨に生まれ育った私が「蕨に元気がなくなった」といったときにイメージし、比較しているものは、やはり昔の蕨です。そして何が違うかといった場合、率直に言えば人通りの多さや店の数が違うことだと思います。時代状況が違うので、単純には復活できないと思いますが、「元気な商店街」とは、人がそこにおおぜい集い、商店の人と市民が交流し合い、必要なものが買い物できるという商店街にしたいというイメージを持っています。ただそれがすべてではないと思っています。それは、いろんな皆さんの意見を伺いながら、いろんな角度からにぎわいのある商店街を考えていく必要があると思っていますからです。

また、そのなかで大事なことは、個々の各商店が経済的に成り立つことであると思います。それが結果として、店の数が増え、人々が交流でき、子どもたちもそこで買い物をして地域の大人と接する。そして子どもたちは社会について学ぶとともに、地域に見守られていき、社会の地域力が高まっていくのではないかというイメージを持っています。

質問・意見

私は車がなくなったことが、まちを変えてしまったと思います。ですから、車が来ない屋根のある商店街がよいと思いますし、そうした場所からにぎわいをつくっていくこともよいかと感じます。

また、元気な商店街に1番必要なものは、駄菓子屋だと思います。錦町にある駄菓子屋には、夕方、子どもたちがたくさん集まっていますし、お母さんたちも必然的にやって来てにぎわっています。それには、やはり車が入らない所が必要かと思います。

また、孫がいるので頻繁に訪れる吉祥寺は、若者の住みたいまち人気ナンバーワンであるとともに、年寄りが休憩できる場所もあるなど、幅広い年代の人に親しまれている商店街があります。蕨市には、西口駅前通りのヤマニ青果店の前に大きな広場がありますので、そこをイベント会場などにして、ミニコンサートや野菜の直販などを行い、市民に親しまれる商店街にしてみてもいいかでしょうか。

市長

車の在り方ですが、以前駅前通りは規制したことがありますが、なんらかの理由で現在の状態になっているのかと思われます。ただ、歩いて安心して買い物ができる商店街ということは、蕨という小さなまちでは大きな魅力になっていくのではないかという感じはします。

駄菓子屋がにぎわっているというお話ですが、昔北町にも駄菓子屋がたくさんありまして、私も子どものころそこへ行くのが楽しみでした。今も昔も、子どもたちにとってそうした場所は魅力的であり、大事であると思います。

また、ヤマニ青果店の前にはある駐車場は、昔、大万百貨店で、そこのごちゃごちゃした店がたくさんある所に行くのも楽しみでした。商店街にはそのような要素がたいせつだと思っています。

農協の直売会につきましても、たいへん人気があると聞いていますので、そうしたものが身近に出来ればいいかと思います。蕨銀座商店会長さんはどう思われますか。

蕨銀座商店会長

今までのたくさんの意見をお聞きして、皆さんたいへんよく考えていらっしゃる

思っています。しかし、皆さんが出された意見は市長さんにとって厳しいことが多く、実現は難しいことが多いかと思われます。

商店街の当事者としてしましては、歩行者天国の件も以前やったことがあります。しかし、戸田や浦和、川口などの方面から車で来るかたが、来なくなってしまうという不便さがありました。ヤマニ青果店の前に駐車場があっても、お客さんは店の前に車を停めたいと思っています。そうした実情を踏まえ、全面交通規制を解除した経緯があります。

また、商店街に住んでいる私の意見は、区画整理をやるなら早くやっていただきたいし、やらないなら永久的にやらないで欲しいというのが率直な思いです。

市長

区画整理の話は、まさにその通りだと感じています。実施するといいいながら実はできないで、規制だけがかかって、自分の土地なのに自由が利かないという最悪な状態です。そうした気持ちは、蕨銀座商店会長さん以外のかたからも伺っております。しかし埼玉県は、一度行くと決めた事業を覆すことは、なかなか認めてもらえません。今、全国的に同様な事業に対する見直しが広がってきていますので、市にとってたいせつなことは、県にきちっといろいろなことを認めてもらい、今のような状態を一刻も早く、なくしていく方向で進めていきたいと思っています。

質問・意見

区画整理には、これだけ時間がかかって、のびのびになっているので、その他の経費もすごいと思いますが、いかがでしょうか。

市長

人件費を含め、たいへんなお金がかかっています。ですから、早く方向性を出していけるよう検討しています。担当部署も、埼玉県と折衝しておりますので、案ができましたら、権利者の皆さんにもご説明させていただきたいと思っています。

都市整備部長

埼玉県が中央第一土地区画整理事業の都市計画を承認したのは平成7年です。

質問・意見

昔はお惣菜屋さんから肉屋さんなどたくさんあり、何でも揃った気がしますが、現在、商店街の商売の範囲が狭くなったと思います。商店街が発展するには、いろんな業種があったほうがよいと思います。

また、今まで近くの商店街で買い物ができたのが、だんだんできなくなり、20分、30分かけて遠くのスーパーに行くのは、高齢者にとって非常に困ります。蕨には商店街がいくつあるか分かりませんが、駅前に限らず、

商店街の皆さん全体で協力して考えていただきたい。

市長

スーパーは、一つのところですべての品がそろう一方、商店街は1つ1つの店の品揃えは少ないけれど、いろんなお店とコミュニケーションを取りながら品物をそろえられることが魅力だと思います。

しかし、商店街は一つの店がなくなることによって、人の足が遠のいてしまうという悪循環も生じてしまいます。全国で多くの商店街に対する取り組みが行われていますが、どこも苦しい状況は変わらないと思います。簡単な特効薬はなく、その解決策はそう簡単ではないと思っています。ただ、市民の皆さんのなかに「商店街ってたいせつだなあ」という思いは伝わっていると思っています。ですから、こうした機会をきっかけに、皆さんで商店街づくりを考えていきたいと思っています。

市民生活部長

商工会議所に登録している商店街は13あります。

質問・意見	<p>商店街では、自分たちが生活していくうえでいろんなことを考えているところですが、市のほうでも、こうした取り組みをやっていただけるのはありがたいことだと思っています。ただ、よほど抜本的なことをやらなければ、元気な商店街にはつながっていかないと思っています。</p> <p>例えば生活に必要な生鮮三品を商店街が行おうとしても、競合する店もありますので神経を使わなければなりません。商店街としても、これまでいろんなことを考えてやってきたつもりですが、市もいっしょに活性化を考えていただけるならば、ほかのまちでやっていないような取り組みをしないと元気な商店街にはならないと思います。</p>
-------	---

質問・意見	<p>今のお話を聞いて、商店街の苦勞がひしひしと分かりました。市長としては、こうしたなかなか前に進まない状況をどう解決していこうと考えているのか教えてください。</p>
-------	--

質問・意見	<p>商店街の活性化には、飛びぬけたことを行うことは必要ないと思います。私は、駅前を通るとき、なるべく「おはよう」や「こんにちは」など、声をかけ合うようにしています。すると、商店街の人たちとも気持ちが通じ合って、ずいぶんと仲良くしてもらえるようになりました。なかには「いらっしやいませ」や「ありがとうございます」を言ってくれないお店もありますが、私は元気な商店街というのは、人と人とのコミュニケーション</p>
-------	---

ができることが大事だと思います。スーパーではそうしたあいさつができているので、商店街にもぜひ取り組んで欲しいと思います。元気な商店街は、元気なあいさつからスタートする気がします。

質問・意見 昔、阿佐ヶ谷はとても魅力を感じる商店街でしたが、現在、確かに商店街は残っていますが、昔あった専門店などが少なく、チェーン店やコンビニなどが多数見受けられるようになって魅力に欠けています。

蕨の場合も、魅力ある商店街にするには、お客さんを寄せる手段を考えなければなりません。すると、お客さんに応じたお店が、自然と生まれてくるのではないかと思います。

市長

商店街の活性化は、「元気な商店街づくり検討委員会」でも、全部がうまくいくということは難しいと考えていますが、例えば、人が集まれるような青果物市場やバザール、コンサート、そしてちょっとした休憩所などを皆さんで議論した上で取り組んで行こうと思っています。そしてそれがきっかけとなって、人通りが増えるとか、周辺の商店に波及効果が出るとか、そうした変化を1か所でもつくりたいと思っています。したがって、検討委員会で、立派な計画を作っておしまいというわけにはいきません。小さなことからでも実行していくことが必要です。

今日、皆さんから挙げた意見は検討委員会にも反映させていただきたいと思いますが、大事なことは、まず実行することだと考えています。実行することによってなんらかの結果が出て、それを第2弾として繰り広げていくことがたいせつだと思います。

更に「元気な商店街・元気な蕨づくり」を進めていくためには、商店街の皆さんにも規制がかかっている中央第一土地区画整理事業の問題を明確にしていくこともたいせつだと思っています。

今日の議論はたいへん実りのあるものであり、これからも、消費者の立場から、皆さんのご意見をたくさん出していただきたいと思います。